（別紙様式２）

【特色あるフロンティアスクールの取り組み事例】

都道府県番号	４４
都道府県名	大分県

Ⅰ．学校名及び規模　　（　①□　②☑　③□　）

佐賀関町立神崎中学校										
	１年	２年	３年				特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2				1	7	１５	
生徒数	４５	５２	４８				1	１４６		

Ⅱ．実践研究の概要（主題及び設定の趣旨）

・主題（テーマ）　基礎学力の定着を目指した指導法の工夫
～　個に応じた学習指導の充実　～

・テーマ設定の趣旨
　生活実態調査から、家庭での学習不足など学習に対する意欲や基本的な心構えの不十分な生徒、また学力検査から基礎学力が十分でない生徒の実態が明らかにされた。これは既習事項が不十分のうちに次の展開に入り、更に内容も複雑になってくると、学習に主体的に取り組む姿勢が徐々に薄れ、そのことが学習に対する関心や意欲を低下させ、基礎学力に影響してきたのではないかと考えられる。
　そこで、生徒たち一人ひとりの学習の成立という視点から学習形態や指導法の工夫・改善を図りながら、生徒にやる気を起こさせることで、基礎学力の定着を目指していきたい。

Ⅲ．実践研究の内容について

（ｉ）研究体制の工夫
　研究部と学習部の連携、また教科担当との連携をとりながら全体研究会・学年研究会で協議し、授業実践、学級運営を図る。
　〇研究部・・・研究の計画、運営（３人）
　〇学習部・・・チャレンジタイムの計画、運営（３人）

（ⅱ）実践研究の内容
①　特設授業よる TT の導入
ア．２年国語（単語の活用）
　生徒たちがグループで話し合うことにより、理解を助け、表現力を高め、協力することで意欲を引き出すことをねらった。グループは学級の生活班をそのまま利用した。二人の教師の共同と分担で変化のある授業の展開ができ、生徒への興味・関心を高めることができた。

イ．３年数学（関数 $y=ax^2$）
（ア）基礎的、基本的な学力向上に向けての考え方
　関数については表・式・グラフを求めることはできても、その関連が理解できない生徒が多い。学力向上を考えたとき、単に知識・技能の習得のみに力点を置くのではなく、主体的に学習し、わかる喜びを感じるような学習形態、授業形態を考える必要

がある。そのために生徒一人ひとりにできるだけ対応することである。
　また、生徒の考えや疑問を気軽に発言できるような学習の奮意気をつくりだせることである。以上のことを考慮し、ＴＴの導入による個別指導の充実と、グループ学習を取り入れた主体的な学習の展開を試みた。

（イ）指導の工夫

　ＴＴによる個別指導の充実。わかる（青コップ)、わかりません（赤コップ）の色コップで表示し質問のあることを表し、指導をうける。グループ学習による教え合いや、協力し合うことで意欲を引き出させる。
　T1とＴ２の二人で分担して、それぞれのグループに支援がいきわたるように心がけ、個別指導を含むグループ指導にあたった。
　Ｔ１は通常の一斉指導の授業を展開し、Ｔ２は机間巡視しながら赤コップを目安に個別指導に当たってきた。
　授業の終わりは、自己評価表をつけさせ、理解が不十分と思われる内容を次時におさえる。（観点別評価の資料として累積しておく。）

（ウ）ＴＴに対する生徒の反応

・先生が二人いるとちょっと緊張するけどよかった。
・自立語と付属語の分類がよくわからなかったが、グループで考えたり、もう一人の先生がついて教えてくれるのでよくわかった。
・質問や発表がしやすい。
・二人の先生のほうがわかりやすいし、質問する時も助かるのでよかった。

（エ）教師の感想

・授業中の問いかけに対して、教え合う場を与えられ、理解力などの進歩が感じられた
・ややもすると、打ち合わせの時間が確保できず、その場しのぎのＴＴになる恐れがあるので、二人の打ち合わせをしっかりやっておく必要がある。
・単元の具体的な展開を検討し、１時間でどういう授業展開をするのか連絡を密にとっておく必要がある。

②　チャレンジタイムの取り組み

ア．取り組みの趣旨

　学力検査結果や定期テストの結果等から、基礎学力が身についていない生徒の実態がうきぼりにされた。これらの実態を受け止め、基礎学力の定着を目指した研究の一環として、朝自習と職員朝会の時間を利用して、9月から実施した。
◇従来の職員朝会は職員終会として１６：１０～（月･水･木）に実施

イ．時間帯

毎朝８：０５～８：２５まで(20分間)取り組む。

ウ．内容

（ア）基礎的な計算問題（全学年統一）を単元毎、一週間単位で学習部が出題する。

・正の数、負の数 (5日間 ＋ 力だめし　 9月 5日～ 9月12日)
・文字式　　(4日間 ＋ 力だめし　 9月13日～ 9月26日)
・小数、分数　　(8日間 ＋ 力だめし　 9月27日～10月11日)
・方程式　　(5日間 ＋ 力だめし　10月12日～10月28日)

この取り組みにより、計算力が身につき、確かめの問題で成果が見られた。

（イ）テスト予想問題

テスト勉強がしたいとの生徒の要望もあり、定期テスト前5日間（11月26日～11月29日）は学習委員会より出題された予想問題に取り組んだ。

《生徒の感想より》

・これまでの朝自習の時に比べて、とても静かになった。
・あまり復習することのない計算問題をやれるのでよかった。
・このままの形を続けてほしい。
・自分のわからないところが教えてもらえるので、わかるようになりだした。
・同じような問題を繰り返してきたので、わかるようになった。
・もう少しレベルアップした問題を作ってほしい。
・早く終わってしまうので、もう少し問題数を増やしてほしい。

《教師の声》

・この取り組みにより、落ち着いた雰囲気で朝のスタートができてよい。
・毎日の取り組みにより、計算力が身につき、定期テストなどにおいて成果が見られた。
・全員の教師で関わっているので、担任は生徒の様子を観察しながら、ノート点検等の余裕もできてよい。
・授業では気づかなかった生徒の実態がわかり、指導方法の見直しのきっかけとなった。

③　補充的な学習・発展的な学習を支える取り組み

ア．グループ学習の導入

グループは、学級の生活班を活用している。

授業の中で生徒たちが話し合う場や活動する場を設け、主体的に学ぶことができるようになることを目指している。

また、友達に教えることを通して、知識や技能の定着力や正確性などを確認させていく。

イ．質問教室の設置

定期テスト前、部活動中止の機会を利用して、テスト学習の意欲づけをねらった取り組みである。

生徒には、事前に教科を選択し、質問内容を用意して臨ませた。初めての取り組みなので生徒に少し戸惑いが見られた。

◇質問教室参加状況（学年平均）
・国語　5～6人　・理科　7～8人
・数学　7～8人　・英語　2～3人
・社会　2～3人　・家庭3人
・音楽　1～2人

質問教室日課表

		28日（木）		29日（金）		2日（月）	
時間		15：05～15：35		16：00～16：30		13：45～14：15	
1年	教科	技家	音楽	社会	理科	国語	数学
	担当	佐藤	姫野	教頭	校長	安部	佐藤
	教室	1-1	1-2	1-1	1-2	1-1	1-2
2年	教科	理科	国語	数学	英語	音楽	社会
	担当	中野	藤沢	大石	渡辺	姫野	久野
	教室	2-1	2-2	2-1	2-2	2-1	2-2
3年	教科	数学	英語	理科	社会	音楽	
	担当	大石	渡辺	中野	久野	姫野	
	教室	3-1	3-2	3-1	3-2	2-1	

今回は、３日間の日程で各学年計画します。（基本的に時間は３０分）
担当の先生は指定の教室で待っています。
※生徒は、事前に教科を選択し質問内容の準備をしておくように

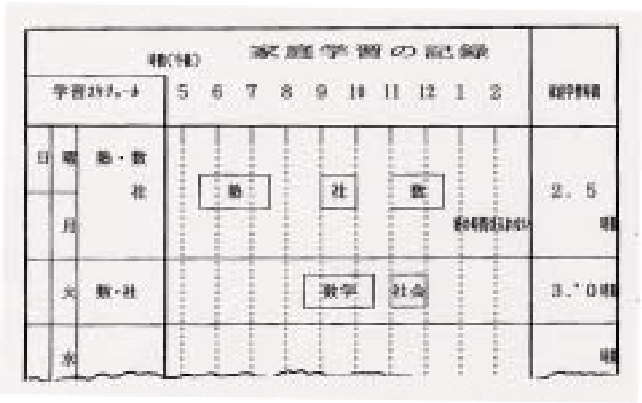
（上図）質問教室用に生徒に配布したプリント

《生徒の感想》
・はじめは質問しようか迷ったが、一回すると次々に質問できるようになった。またしてほしい。
・わかったことがとてもうれしかった。・・・
などの感想から、学習の意欲づけになったことが伺われる。

④　生徒の学習状況（家庭学習）の把握

◇　家庭学習記録表の活用（生活ノートの欄より）

家庭学習の状況を毎日記録させ、週末に自己診断して、一週間の生活リズムや学習状況を見直させることで、学習習慣の定着をねらった。



（iii）成果と課題

１年次は、てさぐり状態での取り組みであったため、それぞれに於ける各種のデーターの整理が不十分なため、成果を客観的データーで示すまでにはいたらなかった。しかし、生徒は授業にＴＴを導入したことにより、問いかけに対して、教えあう場や質問の場がより多く見られ、

授業に対する意欲が感じられるようになってきた。
　現状は、教科担当は全て一人という小規模校の厳しい職員構成であるため、ＴＴの導入には非常に苦慮している。継続したＴＴの授業は大変困難であり、継続できる職員構成が望まれる。
　また、補充的、発展的学習の補足的取り組みである朝のチャレンジタイムは、生徒にすっかり定着し、学年ごとの計画で毎日進められている。

（iv）成果の普及方策
　○　佐賀関町研究会の各種会議での交流と還流
　・８／　１［研究主任・研究部長合同研修会］
　　〈テーマ〉「研究内容の還流と各教科の基礎・基本のとらえ」
　　〈対　象〉各校研究主任・研究(教科）部会部長・佐賀関町教育研究会事務局員
　・８／　７［校長・教頭合同研修会］
　　〈テーマ〉「学力向上フロンティアスクールの指定を受けて」
　　〈対　象〉各校校長・教頭
　・８／１９～２０［地教委・校長合同研修会］
　　〈テーマ〉「学力向上フロンティアスクールの指定を受けて、本校が目指している取組」
　　〈対　象〉町教育委員・各校校長